特 253
828

昭和四年十一月二十三日　於市立名古屋圖書館

市立名古屋圖書館第八回講演集

言語の緊縮

嚴谷小波氏

始

特253
828

言語の緊縮

巖谷小波氏述

發行所寄贈本

（上）

只今館長さんから御紹介を得ました樣に、私は本館とは不思議な御緣がありまして、滿一週年の誕生日の御祝ひ日にも出まして不束かな御話をしたのであります。此度は又それから五年目に、其誕生日と言ふ意味でなしに、圖書館の讀書週間の方に御用をつとめると言ふ光榮に浴したわけであります。

先刻は子供の爲めに御話した、之は私としては常に手がけて居る事でありますから、それは容易な御安い御用でございましたが、午後は大人の方、有識階級の方に御話する事になつて居る。之は私として甚だ荷に余る事と思つて居りましたが、折角でござい

ますから御引受したのであります。

さて、この演題を御覽になると「言語の緊縮」とあつて何か余程むづかしい事の樣で、今は緊縮流行りの時であるが、流行りと言つて誤魔があるかも知れませんが、今日はすべての事を緊縮すべき時代でありますから、此緊縮を言語の上に拜借して、言語の緊縮と云ふ題を掲げておいたのであります。

但し此題の下に、實は御話が二樣に出來るのであります。文字通りの言語の緊縮と云ふ事についての事と、緊縮されたる言語についての事と、この二樣に御話出來るのであります。二兎を追ふ者は一兎をも得ずで、つまり二樣とも要領を得ないか知れませんが、若し時間がありましたら、全く別の意味に於て二樣御話したいと思ふのであります。

初めに言語の緊縮と云ふ事について申します。先達て新聞で見ましたが、名古屋の控訴院でありましたか、裁判所の判決文が假名文字で書かれたり、口語体が用ひられた事が問題になつて、之が無效であると言ふ樣な事が八釜しかつた樣であります、が其

愛知教育大学図書館本

後新聞によると有效と定つた樣であります。私は初めから當然の事だと思つて、之を問題にするのがむしろ間違つて居ると思つて居ました。どんな文章であつたか言語は委しく知りませんが日本人に解る言葉を用ひ、其中で最も簡易な假名や、最も簡易な口語を用ひたるものが通用しない事はなく、こんな解らない事はない、こんな事を問題にするのが間違つて居ると思つた。幸に此事は有效になつたから私共非常にうれしく思ふのであります。さなきだに日本と言ふ國は、言語の上に無駄が多い。緊縮と言ふ事は御承知の通り無駄を省く事であるなら、文字の上にも適用して、即ち言語の整理を要する國であります。隨分世界の國は澤山あるけれども日本語は其点に於て一番複雜多種多樣で從つて無駄が多いと言ふ事を認める。最も簡單に手取早く之を言つてわかるのは、文法上に於て單數の第一人稱代名詞の「私」と言ふ言葉であります。日本程澤山もつて居る所はありません。英語は「I」と言ひ、獨逸語では「ich（イヒ）」大低一つですんで居る。おそれおほくも高貴の御方々から、下は乞食まで一つですむ。所が日本になりますとなか〳〵一口だけではすまない。私、わたし、わつち、おれ、てま

へ、僕、拙者、輩(やつがれ)、小生、吾輩、不肖とても數へきれません。從つて對手も自分程澤山ある。お前、貴樣、手前、あなた、汝、君と言つたり貴殿、足下、其方、これも數へきれない位です。先づ代名詞か其位であつて之に使ふ動詞はどうでありますかおそろしく澤山ある。外國語で言ひますと "I don't know" と一つ言ふだけですが日本人は之を、知りません。存じません。わかりません。心得ません。わきまへません。吾知らず焉などと氣取つてみたり、實に澤山あります。どうしてこんなに澤山出來たかといふと、これは畢竟國が古いからであります。家が古いと塵芥がたまる、國が古いと無駄な言葉が色々出來てくる。それにとかく日本は物を氣取るくせがあつて露骨に言ふ事をさけて、よくしやうといふ事につとめる。何かにかづけて奥床しく世の中を渡らうと云ふ考へで、かう言つてはならん、あゝ言つては失禮とか氣兼して、それがだん〳〵嵩じて上の者に對しては斯う、對等の人には此位と、いろ〳〵な言葉を作つて居る。目下の者にはつけこまれてはいかんから威嚴ある言葉などと、對手によつて使ひわけをする。日本人は大變器用でうまく之を使ひ分ける。たとへば來いと

云ふ事でも、來給へ、お出でなさい、いらつしやい、さやがれとか澤山あつて實にどうも多くの言葉になつて居る。最も外國にも俗語には色々使ひ樣もありますが、日本程澤山はとてもなからうと存じます。私共は之を使ひなれて器用に各種の言葉を可なり巧く使ひわけるが、山出しの女中になりますと之が出來ず、自身の事をいらつしやるなど、丁寧に言ひ、目上の人をつかまへて、却つてぞんざいな言葉を言ふ事があります。

私は先年しばらく外國に行つて居た時、日本語を外國人に敎へて居りました。その時痛切に感じました。それは獨逸の東洋語學校での事でした。これは今日もやはりあると思ひますが、三十余年以前からあるので、吾々の先輩、井上哲次郎博士があちらに居られた時、宰相ビスマークに相談をうけ、獨逸は將來大いに東洋に發展せねばならん、それには東洋語が必要であるから、日本語をあなた受持つてくれと云ふので、初めは井上博士がやつて居られた。引つゞき色々の人がやつて、私が其何代目かしらんに其事に賴まれて居つたのであります。其時日本語を敎へてみて、痛切に日本語の不自

由さ、煩雑さが解りました。吾々同士では何とも思ひませんが、外人を對手にとつて見ると、非常に困難なのであります。色々な質問にあつて、こちらは答へるに困る事が多いのです。まづ日本語を教へるのに、普通三通り丈け教へるのです。對等と丁寧と、口語と、文語と「おいでなさい」「いらつしやい」、それから「來るべし」と言ふ樣な風に……。既に文語と口語と分けるのさへ複雑で、外國にはない事です。大低、文語即口語であります。所が日本語は口語斗りではいけません。口語と文語と大別して、その又口語の中に、前申した樣な非常に澤山な種類があるのです。

そこで始めの中は、生徒も物好きに日本語を面白がつて習ひますが、段々進んでゆけば行く程、切りがないのであいそをつかし、根をきらして、しまひには他の科に轉ずるのが澤山ありました。

例へば、支那人が矢張り支那語を教へて居りますが、——支那語、あの何千字かの形象文字を教へて居るのでありますから、日本語よりむづかしく思はれるが、むつかしそうな形象でも非常に覺えよいそうです。それは音と意味さへ覺えればよい。音と

訓だけ覺えて居ればよいが、日本語はそれではすまん、親とか「しん」とかそれから色々の訓を覺える。つまり親と言ふ意味を獨逸語の親と言ふ意味の外に日本では之を「おや」と讀んだり「しん」とか讀み、之に「切る」と言ふ字をつけて親切となる。親が切ると言ふと何だかおそろしく亂暴な樣に思ふがそうではない、却つて反對に「親切」したしみと言ふ事になる。一つの文字で色々の意味がある事を覺えねばならん。其外日本語には讀みくせと言ふものがあります。例へば作業と書いて「さ業」と讀む。作法と書いて「作法」と讀む。文章を書く時は作文で御行儀の時は作法と讀みます。此字はどういふ字、どういふ意味か幾通りか覺えねばならんとても煩にたえないのであります。尙又滑稽な事がありました。私は外國で教科書におとぎ話を用ゐて居りました。髭の生へた生徒に教へるには一寸おかしい樣ですが、童話は口語体で書いてありますから、最も解りよいのであります。然し相手が大人の事でありますから、まさか桃太郎や猿蟹合戰でもあるまいと、牛若丸の本を用ゐて居りました。そこで、吾々が外國語を習ふと同じ樣に、辭書によつてまづ文字を調べて私の前で讀んで譯する、所謂譯

讀と言ふ事であります。所がある時生徒が、日本と云ふ國は不思議な國で戰の最中に商賣をして居ると言ひますので、商賣とは何かと言ひますと、現在戰の最中に取引してゐます。イヤ、そんな事はない。殊に武士は商賣をいやしんだからと言ひますと、それでもこゝに書いてあります。辨慶と牛若が五條の橋の上で取引をして居る。即ち右にうけとつて左で支拂つて居ると云ふのです。よく見ると薙刀を右にうけ左にはらひと書いてあるのです。右にうけ左に拂ひは、普通使ふ言葉であつて、劍劇のチャンバラである。所が生徒は辭書にのみたよるものですから、うけは受取るはらひは「支拂ひ」とばかり覺えて、さてこそいくさの最中に、右にうけとつて左に支拂ふ、取引をしたものと思ふのでせう。私は思はず吹き出してしまひました。尤も平易に出いた童話でさへ、彼等にとつては、日本語はそんなにむづかしいものかと感じました。斯う云ふ風に、言葉が既に複雜であるのみならず、假名遣ひが又頗る面倒であります。例へば、東京高等商業學校と假名で書いてみますとおそらく小學校の先生（と言つては失禮だが）で此假名づかひを本當に書ける人は、幾人あるかと云ひ度い位です。ギョウと云ふ發音に付ても「ぎやう、ぎよう、げふ、げうと色々あります。それを適切に使ふのは却々むつかしい。其他コウにしてもカウやらカフやら、コウやら、まことにうるさいものが澤山あります。これをどうしても整理しなければならんと感じました。

之より先我邦では已に漢字の煩雜に耐へかねて、假名文字の會、ローマ字の會も早くから存在し、同時に假名遣改正の運動も起りました。實は私の如きは疾うから之を實行して居つたのであります。また今から三十年程前文部省當局者が目ざめて之は如何しても假名遣ひを直さねばならんといふので、諸君も御承知の通り、字音に――（ボー）を使つた事もあります。之は失敗して一切用ゐられなくなりました。けれども其位まで進歩して居つたので、兒童によませる國語教科書も改正を企てられたのであります。私は、己に之を實行して居つた爲に當局者から賴まれまして、不肖ながらその御手傳ひをしてみた事があります。その間約二年間、非常な意氣込で、即ち字音假名遣ひを改正して發音通りにする、例へば私は、と云ふ時のはは、はを書かないでわを用ゐ、何處へはへを書かないでえを書く事にする。さうでないと小學校の子供が可愛想である。

はをわ、へをえと讀ませる事を、特に教へねばならぬ手數がかゝりますが、之が爲めに却つて滑稽な事があつた。子供が江の島へ遠足した記事文を讀むと「への島へ行つてへびを食べたと書いてある。何の事かと申ますと江の島へ行つて海老を食べた事であります。へをえと讀ませる爲めにこんな事が起るので、之は實に下らない事であると感じたものですから、そこで文部省は、小學校の一年生用の讀本から、すつかり文章を書き直し、假名遣ひを發音通りに改め之が九分九厘まで出來上つたのでしたが、その際急に内閣の更迭となり、殘念ながら遂に出來なくなりました。其時の内閣は西園寺内閣で文部大臣は牧野さん、其下に澤柳さんが次官をつとめ、皆頭の新らしい人達がよつて居ましたから、大いに之を勵行するつもりであつたのです。所が外の事件で内閣が更迭せられ、當局者が更迭した後は、必らず反對黨がたちますから、そこで根底から覆へされてしまひました。即ち之を見て之れは國語を破壞し從つて國体を蹂躙するのであると言つて急轉直下に後戻りをしてしまひ、私もすぐ馘になつてしまつた樣な次第です。殊に御氣の毒なのは芳賀博士で、折角九分九厘まで出來た教科書

を初めから又前の通りに書き直さねばならん。芳賀博士は改正の急先鋒でありながらかうなると又節を屈して、心にもない仕事をしなければならない。私はもと〳〵局外からの臨時手傳ひ、自由な身体であるから、其儘筆をおいて去ればよいが、宮仕へはつらいもので、心ならずも自分の主義に反對するものを書き直さねばならんとこぼし〳〵、半年かゝつて、新く書き直されたのであります。それが今日用ゐられて居ります國語の教科書の本であります。其後屢々附加へられましたが兎に角それきり國語の教科書の改正は出來ず急轉直下逆もどりして、何十年かもどつたまゝであります。

それから遙か後になつて、慥か第一次か二次の政友會内閣の時、中橋文部大臣が國語の整理、假名遣の改正をやつて貰ひたいと云ふので、臨時國語の調査會が出來た。此種の機關はそれまでには、文部省の内には之までもありましたが、民間から委員を集めて官民相協力して、此事業を初めてしだしたのは、此の中橋さんの時であります。其後しば〳〵内閣も變つたが幸につゞけてきて居る。其の代り、今度は當局者もなか〳〵利巧になり、八釜しく世間にさはぐのは新聞記者でありますから、あの新聞記者

を代表的に皆委員に入れた、所が八釜しいどころか、勿論それの實行者であり、贊成者であるから、そこで此會は非常に有意義に進行してきました。所が内閣が又替つたり、時の行政整理などで豫算が削られ、辨當代は出るが、手當はとても出せぬから、結局此會は解散し樣と云ふ樣な問題が、岡田さんの時に起つた。すると此委員は金の爲めに廢めるべきものではない。金の爲めにやつて居るのでない。豫算がないからと云つて廢める性質のものでない。吾々は勝手にやる。若しそれでも之を廢めると云ふなら、こちらにも相當考へがあると言ふので、新聞側から申出たものだから、當局者も少からず動かされ、それではと言ふ事になつて、現に今日迄存續されて段々仕事も進捗し、即ち假名遣ひの改正、漢字の節減、言語の整理と言ふ事が、今日も大いに研究されてゐるのであります。そこで今日までの成績をと云ふと、漢字は常用漢字と言ふものが發表され、次いで假名遣改正案も出來ました。尤もその意見は、まだ充分徹底したものでなく、テニハ丈を舊の通りと云ふ事になつて居ります。私共は之に反對ですが、少數意見で負けてしまつた。どうも頭の數でゆく事はかなひません。これを

なまじテニハまでいじくると、又頑固連の反對がやかましく、反對が出て宮内省や樞密院あたりから、國体破壞などと言はれると面倒だから其点は妥協的に歩みよつてやらうと言ふ、甚だ姑息な議論で終つてしまつたのであります。その代りぢもじも、づもずも、皆一樣にじ、ずとなつてしまひました。たとへば千々に心をくだくと云ふ事がありますが、今度はちじに心を碎くになつて、何だか知事さんの爲めに心配する事になつてしまひます。また停車場の掲示などでよく問題になります。例へば舞鶴と言ふ所がありますがまなづるはつるの濁つたづるでありますが、今度のになると、まなずるになり濁りをとるとまなするになつて原の意とは違つたものになり、甚だおかしい感じがします。この方は私はむしろ反對なので、之は語原を殘して、つのにごりは、ずとせずにし、ぢはじとせず、ぢとしておき度い。然るに、此方は思ひ切つて改めながら、テニハだけ舊式に殘しておくのは、どうも面白くありませんが、これも少數意見で致方ありません。イヤこんな愚痴を云つてすみませんが、兎に角斯樣な次第ですからまだ〳〵この實行迄には、前途遼遠といつてもよいのです。飜つて三十年

前にあれだけ進んで居つたあの時、若し斷然實行して居つたならば多少世論の反對はあつたかも知れませんが、今日どの位小國民が助かつて居たか知れません。所があの時土端場で逆戻りしたばかりに、今日迄まだ取返しがつかないで居る。實に心外千萬な次第です。先刻言つたあの判決文、何時も漢字文の届けの書き方等は實に古い、それがそのまゝ今日迄殘つて居る。借金の證文などは仕方がないが兎に角私共保證して居る子供が學校を休か遲刻すると、右之者何月何日電車停電の爲め遲刻仕候間此段御届候也と書かねばならん。之なども何時何所で電車が停電しましたから遲れました。御免下さい。それですむ。それですむ樣なものを右之者何月何日電車停電の爲め遲刻仕候右御届候也右保證人何某、と書かねばならんなぞは、實に時代錯誤ではありませんか。私がもし學校の校長であつたなら、欠席回數券でも初めに渡して置く、そして欠席した度に一枚づゝそれを出す、學期のしまひに數へて何度欠席した、欠席しないものは、その券を又返す、と云ふ樣にしたら、極めて簡單なものですむと思ふ。立派な半紙一枚使つて、少し遲刻した位に保證人の所へ行つて印をもらはねばな

らん、實に馬鹿らしい事であるが、之が今尙立派な都會の學校で行はれて居る。あの届紙が學校には澤山出來て何かの下張り位に使はれるでせうが、實に無駄な事ではありませんか。斯う云ふ樣な事は、いくらでも緊縮すべきと思ひますが、今日の緊縮がそんな邊に徹底しないのは御同樣誠に殘念な事と思ふ。どうか今度い樣な內閣の下に言語の緊縮文字の整理と云ふ事が勵行されて、早く未來の國民の爲めに、此敎育上の負擔の輕くなる事を私は切に希望して止まんのであります。以上は所謂る言語の緊縮でありましたが、さて今度は緊縮されたる言語について、全く別問題な話をしたいと思ひます。

（下）

實は此御話は婦人の澤山いらつしやる方が話がしよいのですが、御見えになりませんけれ共、大多數は家庭の方であるから、其意味に於て差支へないから話します。

日本の昔から傳はつて居ります文藝上の作品、所謂る詩形の上に、最も緊縮された

ものは何かと云ふと、十七文字の間に森羅萬象を詠じる俳句、乃至世帶人情を描き出す川柳、狂句と云ふものであります。それより短いものに七字七字、即ち十四字ですんで居るものもありますが、先づ詩の形してゐるのは、五、七、五、所謂俳句、川柳であります。此緊縮されました言語の中に思ひの外廣い深い意味がある。之は外國には類のない、日本に於てのみ見る、誇るに足るべき詩形であります。今日は、決して其理論を申すのでありません。丁度鞄の中に持ち合はせて居る、拔書のカードの中に私が好きで集めた、子供に關する古川柳がありました。之を緊縮された文字の標本として御紹介してみたいと思ふ。まづその一番初めは、子供の生れた塲合の句であります。

「衣裳より出來てうれしい男の子」

之れは一体女は非常に衣裳をうれしがります。中には命より大事がつて、火事の時之をとりに入つて死んだ人がある位です。然しそれは娘時代の事で、人の妻になつてしまふと衣裳よりは子供がほしい。それも男の子が生れたのは衣裳が出來たよりうれ

しいものだと云ふ事です。殊に昔は一家の尤も大切なのは男の子で、男の子でないと後嗣ぎが出きませんから、男の子を非常に喜んだものです。さてその男の子が出來ると之を早速郷里の母に知らせる、すると母は、

「くにの母生れた文を抱き歩き」

抱き歩きは言葉のあやであります。生れた知らせの文、其まゝを、實際生れた子供であるかの樣に、そのくにの母がうれしさの余り、文をかゝへて、近所近邊を吹聽して歩く樣を云つたものです。

「親類が來ると赤子のフタをとり」

赤子は大事な箱入りと言ふ心持ちから、フタをとりと言ふ言葉にあやが出來た。親類の人が來て產婦の間をのぞきほんとうに良い御子さんです、目もとから口もとは御母さんにそつくり、額の生えあがつで居る所はお祖父さんに似てゐるなどと、フタをとつて、即ちふとんをめくつて、しきりにほめて居る所であります。さて子供が出來ますと親は子供可愛さに子供にかまける、他の事が御留守になる、

「子を持つてから三日をやつと塗り」

三日と言ふのは、朔日、十五日、二十八日で、此日は仕事を休み赤い御飯をたく紋日であります。三日をやつとぬり、は子供が出來て化粧、身仕舞するひまがないが紋日丈けやつとすると云ふのですから、誠に結構な事であります。所が今の御母さんはなか〳〵三日所か、のべつにぬつて、一向子供なんぞかまはないのもある樣です。併し、子供がだん〳〵大きくなりますと、

「乳にあたる齒を笑はせて數を見る」

若い母親が子供をねかせてうと〳〵する時、キユッと乳首をかまれて、びつくりして目をさます事があります。けれどもまさか赤ん坊を叱りつけはしません。さては齒がはへて來たなと、うれしさにどの位生えたか見たいが、むりに口をわつてみる譯にはいかないから、何とかしてやさしく笑はせてみる、上に一枚下に二枚と齒の生える事を見て喜ぶ親心を云つたものです。それから子供はだん〳〵成人して

「藝も出き片言口に齒が二枚」

かいぐり〳〵、おつむテン〳〵など藝も出來、ウマ〳〵、ママ、ババなど片言で云へる樣になると、丁度齒も二枚見えると云ふのです。

「男の子はだかにするととらまらず」

男の子は元氣がよい、裸にすると原始時代の活力を出して、喜んで飛びまはる、それ風引く、おへそをとられると言つて、追ひまはしてもなか〳〵つかまらないで、着物が着せられません。

「着飾つて乳母ははだかを追ひまはし」

子供をつれて何所かへ出やうと云ふのでせう。乳母が先に身仕舞をして、それから着物を脱がせ着物を着せにかゝると、裸にしたから容易につかまらない。さかんに方々へ飛びまはる。それを乳母は追ひまはして居る形です。かう云ふのなら有望ですがどうかすると病氣になり、かうなると又なか〳〵面倒です。子供は大てい御醫者樣が大嫌ひなもので、なか〳〵側へよりつけません。そこで色々の手段を講ずるが近頃はなか〳〵利巧になりだまして脈をとつたり、聽診器をかけたりします。

「子供醫者無駄な脈からとつてみる」

わざと子供を抱いて居る母親の手をとつたりしますと、「あら私ではございません、子供がわるいのでございます」「オッ失禮」と笑つたりすると、子供もつられて、思はず笑ひ出す、その間に巧く脈を見てしまふと云ふ氣轉を云つた川柳です。更に之を人情的に家庭的に見、ロマンチックに見たのになりますと、

「子が一人出來てそれなりけりになり」

折角夫婦になつても、とかく苦情が絶えないで、いつそ歸へしてしまをうか、引取つてしまをうか、などゝ云ふ場合にも、子供が一人出來てしまふと、その可愛さにそれなりけりで、問題も何處へやら、ずる〳〵居据つてしまふ。してみると國交繼絶が平和に結ばれた殊勳者で家庭として大いに表彰せねばならんのであります。

所が子供が出來てもまた家の中がもめる事があります。子供が出來た爲め、却つて夫婦仲の疎ましくなる例もあります。例へば相思の間などにては差向いの間は相方が五分〳〵に愛しあつて居たが、子供が出來たために愛の半は子供にとられてしまふ。

また子供に手がかゝるので、折角夫が歸つて來ても、今までの樣に薄化粧をして待つても居ず、晩の御菜も今までは好きなものがこしらへてあつたのが、一向出來ないで居ると云ふ樣な事では、一寸面白くない事もあるのでつい亭主は何所かよそへ遊びにゆく樣になる事もある。そんな事が重なると、妻君の方でも不平は募つて、まさか胸ぐら取る樣な事はないまでも何時か一度は言はうと思つても、子供が居ては言ひ出すにも言へない。そこを寫したのが、

「言ひたさを後へまはして子をねかせ」

と、なるのです。そこへ御亭主は外から歸つてきた。御亭主の方もすねに傷持つ身、てれかくしにねてゐる子をあやす、すると又それをとがめて、

「ねかす子をあやして亭主叱られる」

折角ねかしつけた所で、之から何か言はふと思ふ時に、主人が起こしにかゝるから

「あらいけません今ねたばかりぢやありませんか」と叱られる。

之は私なども時々ある事で、用事で忙しくて、朝出て夜歸ると子供が起きてゐる所

を、何日も見ない事になりますから、たまには笑はしてみたいので、寢て居る子をあやしに行くと、今おこしては困りますと、惡意でなしに叱られる事もあります。そこでこの親が子供をあやす態度は、第三者からみると他愛もないもので、

「子をあやすうちは本氣の樣でなし」

これが本氣の樣であつては子供は喜ばない。子供は子供、御父さんはお父さんと言ふ樣な差別觀を以て接したのでは、一向面白くありません。例へば幼稚園の先生方が號令の樣に云つたのでは、子供には少しも役に立ちません。自分が子供に同化してやらねば、子供がつりこまれる事が出來ません。然し、好い年をした者が、まるで赤ン坊の樣になつて、皆さん手をあげてと言つて他愛なくやつて居るのを、もし塀の外から見たらとても正氣とは思へますまい。けれどもそこまで同化しなければ、子供は本當の感化をうけないのであります。

尙斯う云ふのもある。

「男親後を追ふ子に氣のしまり」

之は中々巧い事を言つたものです。夫婦の間が面白くなく口論でもした揚句、勝手に何所かへ遊びに行かうとする。細君がとめてもなか〳〵きかないで若し子供が出て來て「御父さん何所へ行くの」とでも云はれると、うん己れにも子供があつたなと、氣が引締つて、つまらない事をしまいとすつかり思止つてしまふ事になります。それは最も策の得たものとして、此妙手を使つて、即ち子供を利用して巧く操縱する妻君もある位です。

尙二三の事を申しますが段々子供が大きくなつて、如何なものに育てあげるか、如何に躾(しつ)けるか昔の人はなか〳〵苦心して居る。

「人間の子を人間に育てかね」

と言ふ事もございます。人間の子だが親に似ない鬼子になつたり、不心得をする畜生になつたり、面白からぬ結果になるのがあります。西洋の諺にも「親になるは易いが親であるのは難い」と言つて居ります。僅かなテニハの違ひでありますが、非常な違ひがあります。親になるとは子供をこしらへる事でありますから犬、猫、鼠、兎など

の高等動物は、皆肉の親にはなりますが、心の親である事はむつかしい。乳離れをすると親からもらつた事も忘れ、親とけんくわしたりかみあふ。竹の子にも親子、芋にも親芋子芋とありますけれども、竹の子の親が子の着物を着せて居る事はなく、芋の子が親と話して居る事も聞いた事がない。所が人間は萬物の靈長であるから、親になる斗りか、親である。詰り親の道をふんでゆく樣な事を知つて居る。即ち子を敎育してゆくと言ふのであります。然しこれも緩急よろしきを得ないと、甚だ面白からぬ結果になります。子供と云ふものは、甘すぎるとつけ上り、きびしすぎるとやけになる。

「叱られて破れかぶれの面白さ」

と云ふのは、そのきびしすぎた塲合にある事で、即ち負けおしみの反動から、何だこんな事位にとやけをおこします。そのヤケの間は痛快であります。けれどもそれが面白いまでやられてはたまりません。それは親として注意せねばならん所と思ひます。

「親のやみ只友達が〳〵」

親は時々子供を見損ふものです。子を見る事親に如かずと言ひますが、親は自分の子供が惡くても、所謂る親のやみで友達のせいにしてしまふ。そこをつけ込んで子供の方には、いろ〳〵親をだます手があります。

「母親は勿体ないが騙しよい」

何故かと言ふとよほど賢明な母ならとにかく、女親は男親に比べると、世間をあまり見てゐない、女親は世帶にかまけ新聞さへ讀まない人があつて、世事にうとい爲めに、可なり頭のよい人でも、詰らん事で騙される。例へば子供が東京へ留學に行つて居る間に、相當に惡友も出來て、惡友とカフェーへ遊びにゆく、したがつて小遣も余計いる。所がさう〳〵親の所へは言へませんから母親は勿体ないが騙しよいで「此頃東京は火事が多く家の下宿のそばに小火があつて燃えはしなかつたが、ポンプのしぶきで本が使へなくなつた。今度の學期に困るから、その本代を送つて下さいと言つてくると、母親は眞にうけて心配して、まあ怪我のなかつたのが、幸福だつたとへそく

り金を出して急いで送つてくる。息子はベロリ舌を出し友達とカフェーへ遊びにゆく、母親は勿体ないが騙しよい。之は母親であるが、男親はそんな譯にはゆかない。何となれば男親は今迄自分が同じ樣な事をやつて來て居ますから、その經驗で其手はくはない、女はうぶなものですから喰はされる、此点に於てどうか今の婦人の教育と言ふものは只學校の教のみでなく、世間學、人間學と云ふ、世の中をよくする教育を受けさせてもらひたいと私共は考へます。

最後に、

「親故に迷うては出ぬ物狂ひ」

物狂ひは氣狂ひ、三井寺椀久など妻や子故に迷つた例はありますが、親故に迷ふ例はありません。

「妻故に子故に迷ふ物狂ひ」

妻や子が見えなくなると尋ねて歩くものはあるが、親が居なくなつたと云つて、氣狂ひになつた者はない。それ所か此頃の芝居に、「父歸る」と云ふのがあります。これ

は折角歸つて來た父をさへ、子供等が家へよせつけない。親故に迷ふ子供はない。子故に迷ふのです。

親はあつても、親の爲めに子供がそこ迄思はんのは實に甚だ情ない事であります。すると親は甚だ割の惡いもので子供の爲めさん〳〵苦勞しながら、それ程思はれないと言ふ事になる。併し之は相對的の事で、親が眞に子供を諒解して愛するなら、子供も又親にそれ丈けの事は酬いる。要するに人倫の基は愛にあります。愛が色々な事に働いて、上には忠となり、親には孝となり、夫婦の愛は和、下には慈となり信となる。すべて愛の働きがあれば親は子を眞に理解し愛する。子は眞に親を愛して本當の孝行を盡し、初めて親子の間がぴつしりと合ふのであります。親故に迷つて出ない子はなく、眞に親を思ふ樣な子が出來ると思ふ。之は詰り親が親たる道をふまずに、親たる資格のない、騙されると云ふ程度ではいけない。其点は親は親として子供を理解して、子供は新らしいものであるが、古いものも始終それと歩調を同くして、常に立ちおくれない程度に進んでゆく必要があるのであります。

この意味から見ても、この圖書館と云ふものは最もよい機關であると思ふ。已に學校へ行かれなくなつた人達でも、圖書館に來れば思ふ樣に勉强が出來、若い人に負けない丈け精神を修養し、智識を涵養せしめる事が出事るから、此意味に於ての讀書週間なぞは非常な意義のある事と思ひます。即ち私も及ばずながら御手傳ひした次第であります。之で御免を蒙ります。

328
309

昭和五年四月一日印刷
昭和五年四月三日發行

非賣品

編輯兼發行者　市立名古屋圖書館　名古屋市鶴舞公園内
發行所　土屋宮三郎　名古屋市中區本二見町三九
印刷者

終